

目次

[概要](#)
[前提条件](#)
[使用するコンポーネント](#)
[表記法](#)
[背景説明](#)
[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、開発者は注意する必要がある組み込みの Math 要素のさまざまな戻り値について説明します。

前提条件

使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は Cisco Unified Call Services (ユニバーサル版) および Cisco Unified Call Studio に、ユニバーサル版に基づいています。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

背景説明

症状： 組み込み数値演算要素がランタイムに式を評価するのに使用されていますが結果として生じる値は -0 またはナンとして保存されます。

解決策： -0 という値に 0 に普通評価する式の負数によって達する場合があります。これはエラー状態でし、あらゆるカスタムコードによって処理することができますまたはアプリケーションがこの値を解析するのに使用するデシジョン。

ナンの値は指定された式の評価に問題があったことを意味します。たとえば、ゼロ除算はナンの値という結果に終わります。音声アプリケーションは組み込み数値演算要素を使用する時はいつでも、この値があるように確認する必要があり、コールフローが続くことができるようにそれを処理することはデシジョン要素からの math_error 終了状態の下で適切に、たとえば、終了します。

関連情報

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)